

# JA秋田なまはげ オーブンニングセレモニー



4月2日(月)、秋田市で「秋田なまはげ農業協同組合」(愛称「JA秋田なまはげ」)オーブンニングセレモニーと神事が執り行われました。行政、関係者約80人が参加し、JA秋田なまはげ会館正面入口で看板の除幕式とテープカットが行われ新JA誕生を祝いました。

「JA秋田なまはげ」は、秋田市を事業エリアとする「旧JA新あきた」と、男鹿市・潟上市・天王地区を事業エリアの中心とする「旧JA秋田みなみ」が合併し新たに誕生しました。合併による新JAは秋田県中部の地区にあり、生活圈・経済圏を一带とした大規模な組織になることで、経営資源の効率的活用や規模のスケールメリットを發揮します。

京極芳郎組合長は「組合員に支持され、愛される組織を作っていく。併せて、JA改革、自己改革等々に休むことなく、組合員も納得できるような姿を目指しながら取り組んでいく。地域に根差し、安全で安心な農畜産物を提供していく」とあいさつしました。

来賓の穂積志秋田市長は「今後も様々な協力をしながら、皆様に喜ばれる農業、希望の持てる農業を作ってまいります」と祝辞を述べました。

船木中央会会長は「米の生産調整やJA改革など難しい状況もありま

すが、組合員の所得向上を目指していただきたい」と祝辞を述べました。  
「JA秋田なまはげ」の組合員数は約2万2000人(県内2番目)、主な農畜産物は米のほか、メロンやナシの果実、NANAHAGEダリアや菊などの花き、全体の販売額は県内4番目となります。

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標にかかげ、魅力のある農業を実現するため、自己改革に取り組みながら、農業協同組合として相互扶助の精神を理念とし、組合員の営農と生活の向上を図るとともに、事業活動を通じて地域社会に貢献していきます。



京極組合長



穂積秋田市長



船木会長

